

平成20年度

大学改革推進事業（質の高い大学教育推進プログラム）

ファーストステージで学びの進化をカタチに

<取組紹介>

短期大学の目的である英語運用能力の向上と国家及び国際社会に役立つ人材を育成するため、英米語学科への短大部一元化を機に、カリキュラム改革を実施し、卒業後のキャリア選択を見据えた3コース制を導入した。ちょうどその年に、本プログラムは、総合的な取組を通して基礎的人間力を培い、英語運用能力に磨きをかけた上で、進学や就職という「セカンドステージ」へ送り出すことを目的に開始した。短期大学部を高等教育のファーストステージとしての位置づけである。初年次教育として学習方法の修得と基礎的人間力向上のために開講した「K. G. C. ベーシックス」、英語力レベルアップのツールとして「ICT利用した授業外英語学習システム」、及びさらなる英語力アップと国際理解の深化を目指した「全学生留学制度(希望者全員)」を三つの柱として、「短期大学学士力」を達成し、「出口」保証に資するプログラムである。

①K. G. C. ベーシックスでは、クラス・カウンセラーによる授業の他に、学内・外講師の講演、各種ガイダンスやボランティアの推進、留学生との交流等自発的な学習を誘導し、短大生としての学習方法の習得とともに卒業後の多様な進路を視野に一般常識・マナー・コミュニケーション能力等一般的教養を身につける。1年生対象の必修科目として開講している。

②ICT利用した授業外の英語学習システムでは、Webを利用した本学独自の「Listening & Reading Online」と、携帯電話を利用した英文法、英単語の自主学習プログラムを産学協同で開発・運用し、卒業時の英語力を英検2級以上、入学時より TOEFL 100点 TOEIC 200点のスコアアップを図る。このシステムは、英語運用能力の向上を図るため、質の高い授業を提供するだけでなく、「授業外」の時間にも英語に触れ、学ぶ姿勢を持ち、学生の自主学習を進めやすくするツールである。このシステムにより「単位の実質化」を図る。

③全学生留学制度は、本学が、これまで構築した世界50カ国・地域331大学との単位互換提携ネットワークをベースに、希望者全員を対象とした新たな留学制度である。5～15週間の4種類の短期留学プログラムを新設し、実践的英語力の向上と、国際感覚を養うものとして推進している。